

会議録全部記録

□全部記録 ■要点記録

1	会議名	姫路市地域自立支援協議会全体会（令和4年度第1回）
2	開催日時	令和4年 6月27日（月） 10時00分～12時00分
3	開催場所	姫路市総合福祉会館 第1会議室
4	出席者	<委員> 姫路市地域自立支援協議会 委員20名 <事務局> 障害福祉課長、障害福祉課主幹、障害福祉課担当者
5	傍聴人数	1名
6	次第	1 開会 2 議事・報告 (1) 姫路市障害福祉推進計画（令和3年度実績）について (2) 令和4年度姫路市地域自立支援協議会事業計画について (3) 障害者生産活動振興事業について (4) 姫路市支給決定基準の見直しについて 3 その他 4 閉会
7	配布資料	<事前配布> 資料1：姫路市障害福祉推進計画に係る令和3年度実績について 資料2：令和4年度姫路市地域自立支援協議会事業計画（案） 資料3：障害者生産活動振興事業について 資料4：姫路市支給決定基準の見直しについて <当日配布> 会議次第 令和4年度 第1回姫路市地域自立支援協議会配席図 姫路市地域自立支援協議会委員名簿
8	会議の要点内容	以下のとおり
事務局		1 開会（10:00） 2 議事・報告 (1) 姫路市障害福祉推進計画（令和3年度実績）について 【資料1：姫路市障害福祉推進計画に係る令和3年度実績について】説明

会長	何か質問はあるか。
委員	<p>重点目標①相談支援体制の充実について、内容の充実について取り組まれたことがあれば教えてほしい。</p> <p>児童系サービスの利用実績が増加しているとのことだが、各自治体で取り組みが様々であると感じている。本校の通学区域は姫路市及び神崎郡の3町であり、不登校の児童生徒が増えている。支援内容の充実や就学前検診について、本市の考えを教えてください。</p>
事務局	<p>地域相談窓口「ひめりんく」を令和2年10月に開設した。開設前と比較して大きく変化したことは、相談支援専門員を配置し、担当者を固定することで専門性が向上したことなどが挙げられる。</p> <p>委員に基幹相談支援センターの職員がいるので、何か補足説明があれば発言をお願いしたい。</p>
委員	「ひめりんく」に関しては、地域に相談窓口が増えたこと、障害児（の保護者）からの相談が大きく増加したこと等が挙げられる。
事務局	不登校への支援や就学前検診については、所管ではないので回答することが難しい。委員に教育委員会の教員がいるので、何かあれば発言してもらいたい。
委員	就学前検診について、疑問に感じているのは、具体的にはどういった内容か。
委員	<p>他都市では5歳児検診を実施していると聞いており、そこで発達障害の（疑いのある）児童を把握することで、支援ができていくという話を聞いた。姫路市は、5歳児検診を実施していないことにより、地域の学校で支援を受けられず、不登校になるという傾向が見えてきている。5歳児検診を実施することで、障害特性を把握した上で入学し、不登校も防げると考えている。</p> <p>以前、不登校に特化した支援を保健所に相談した際に、「ひめりんく」が担当と言われた。その後、「ひめりんく」に相談したところ、「対応できない」との回答であった。</p>
委員	<p>教育と福祉は、より連携を深める必要があると考えている。総合教育センターには適応指導教室があり、不登校の児童への支援を実施している。ぜひ活用してもらえたらと思う。</p> <p>相談窓口うまく繋がらなかった件については、様々な機関が相談窓口を開設しており、もっと相談窓口同士が知る必要があると感じている。</p>
委員	<p>確かに5歳児検診を導入している自治体はある。そもそもなぜ発達障害と言われる子どもが増えたのかという問題について、保健所では10年以上前から議論している。</p> <p>1点目は、スクリーニングを多く行うことが有効との考えが主流になっている点が</p>

	<p>挙げられる。</p> <p>2点目は、親が子どもに求めるものがかなり高くなっていることが挙げられる。</p> <p>保健所としては、保護者にどう理解してもらうか、子どもの良いところはどう目をつけるかに重きを置き、積極的なスクリーニングをかけることはしていない。</p> <p>保健所は支援の入口の場と考えており、保護者から相談があれば、長い目でお付き合いしていきたいと考えている。</p>
副会長	<p>本市では、教育連携支援の仕組みはしっかり運用されているが、その仕組みを保育所・こども園等の職員へ、どのように、より効果的に周知していくかが課題である。適切な支援を受けられている子どももいるが、一般校への理解促進が捗っていないことが課題ではないかと感じている。</p> <p>発達障害のある児童は、その生活の場を見なければ、適切な支援方法は判断できない。保護者以外で気付くことができるのは、学校園での様子を見ている先生等である。5歳児検診にも一定の効果はあると思うが、現状では教育連携支援の周知徹底が必要ではないかと考えている。</p>
委員	<p>私は発達障害児の支援をしている。発達障害が増えているかどうかについては、様々な研究がある。発達障害のある子どもであるかは、現場では把握できているが、なかなか保護者に伝えられないことが課題である。保護者の同意がなくても、しっかりと情報を伝えていくシステムづくりが重要である。</p> <p>法律においては、障害は社会モデルと規定され、発達障害は、子どもの問題ではなく、社会の問題であると考えられている。従って、発達障害のある子どもは、地域の学校に入学することを前提とし、その上で教育カリキュラムを実施していくことが、求められている社会モデルとしての対応と考えている。</p> <p>一方で、スクリーニングを実施し、入学前に支援することで、入学後、学業に取り組みやすいというデータもある。一定のスクリーニングは必要であると考え、インクルーシブ社会という観点から対応していくことが非常に重要であると考えている。</p>
委員	<p>自法人では保育所も運営している。保育所では、保育士が子どもと関わる中で分かることが多々あり、保護者とコミュニケーションを図り、相談しながら支援を進めていく。</p> <p>自法人の園でもインクルーシブ保育を行っており、保育所等訪問支援事業の案内をしているが、支援時に保育士などの同業者が訪問すると聞くと、身構えてしまう。</p> <p>教育・保育と障害分野の関係者が交流する機会、情報交換の場が少ないと感じている。話し合う機会や場があれば良いと思う。</p>
会長	<p>議論を深めていきたい内容であるが、一旦、総括させていただきたい。</p> <p>計画の実績について、児童系サービスのニーズが増えていること、基幹相談支援センターの相談・支援件数が増え、ニーズがあるということが見えてくる。</p> <p>一方で、社会的な資源が整備されていないために実績が挙がっていないものもある。</p>

	<p>特筆できるのは、入所施設からの地域移行が0人の点である。重度障害のある障害者が地域生活できる基盤が十分でないために、実績が挙がっていないと見ることはできないのではないか。医療的ケアが必要な障害者の地域生活に関する課題や重度訪問介護を提供するヘルパーの人材不足の面も見えてくる。</p> <p>これらの点を踏まえ、専門部会で議論していきたい。</p>
<p>会長</p>	<p>(2) 令和4年度姫路市地域自立支援協議会事業計画について 次の報告に移る。報告(2)の令和4年度姫路市地域自立支援協議会事業計画について、事務局から報告してもらう。</p>
<p>事務局</p>	<p>【資料2：令和4年度姫路市地域自立支援協議会事業計画(案)】説明</p>
<p>会長</p>	<p>何か質問はあるか。</p>
<p>委員</p>	<p>まず、まもる部会のテーマである虐待に関する問題について発言したい。姫路市では、昨年度に大きな問題が発生している。この件は、検証されていると思うが、今後も同様の事件が発生すると考えている。今回気になったのは、発生したときの対応方法と情報公開についてである。保護者の相談する窓口は多々あるが、保護者は、どこに相談すればよいか迷っている。サービスを受ける側からすると、身の安全が保障されなければ相談はできない。</p> <p>第三者機関を設置し、通報後「虐待事案は解決」といった情報を正確に公開していくシステムを検討してもらいたい。</p> <p>次に、こども部会に関連する部分で気になっているのは、情報連携やサポートブックについてである。本協議会で作成している「あしあと」など良くできているものもあり、様式は多くあるが、どれもあまり活用されていないのが実情である。様式の見直しが必要であり、情報共有という意味でも1つのファイルに全ての情報が入っていることが大事である。この点について、簡単に管理できる方法を考えている。デジタル素材で様式を整え、予算の財源は、スポンサーを獲得して対応するという方法も採れるのではないかと考えている。</p> <p>最後に、事業者部会に関して、以前、サービス管理責任者の更新研修を受講した。事前課題で、「地域の自立支援協議会にどの程度関与しているか」「何回程度参加したか」という質問があった。私が本協議会の委員でなければ「0」と回答するところであり、他の方でも「0」と回答する方は多いと思っていたが、実際に研修に参加すると、他都市の方は、何回も関与している方が多くいた。事業者部会において、年数回事業者が関与できる取組があれば良い。開かれた協議会になれば、自然と当事者の意見が入ってくると思う。私もぜひ参加して、そのようなシステムを作っていきたいと考えている。</p>
<p>会長</p>	<p>まもる部会については、虐待通報の内容を検証し、分析する必要性を感じているため、今年度のテーマに設定した。</p>

事務局	<p>委員ご指摘のとおり、本協議会が作成しているサポートブック「あしあと」については、利用が少ない。当時の議論を経て、良い物ができているため、データ管理できるようにする等、利用しやすい方法を検討したい。</p> <p>協議会への関与については、自治体規模の違いもあるとは考えるが、本市ではごく一部の方のみが関与している状況にあるのは確かである。事務局としても、より多くの方の参加を望んでおり、どのような方法が良いか、検討したい。</p>
委員	<p>サポートブックについては、幼保の年齢から持っていない児童が多くいる。また、義務教育の年齢しか記載できない様式もある。サポートブックは、生涯持つておく物であると思う。継続的な支援を受けられる拠り所となるよう、見直しを進めてもらいたい。その際は、ぜひ学校の意見も聴いてもらいたい。</p>
委員	<p>障害者の移動を支援するサービスについては、移動支援、交通助成制度など様々あるが、そのようなサービスについて、検討する場を設定することはできるか。</p> <p>移動支援に関しては、本市では個別支援型のみで、グループ支援型、車両移送型はない。他の中核市ではグループ支援型、車両移送型を実施している自治体もある。検討する場がなければ、地域自立支援協議会で場を設けるべきであると思う。</p> <p>移動支援の単価については、昨年度改訂があり、多少改善されているが、以前は近隣市町と比較し、3～4割程度単価が低かった。近隣市町と同水準まで改善してもらいたい。</p>
事務局	<p>移動支援の類型について、グループ支援型や車両移送型の採用の適否については、約10年前に議論があり、その意見を踏まえ、結果、現在の個別支援型のみになったと把握している。当時の議論の詳細について、会長の発言をお願いしたい。</p>
会長	<p>移動支援の類型については、地域自立支援協議会で議論を行った。当時、「グループ支援型、車両移送型について一定の必要性がある」とし、障害福祉課へ提案した。結果、安全性・責任の所在についての課題があること、(当時)車両移送型は過疎地での採用が主などの理由で、姫路市では当面見送るという回答があった。</p> <p>年数が経て、都市部でも個別支援型以外の類型を採用していることを踏まえ、改めて検討する機会が必要ではないかと感じる。</p> <p>委員の提案について、運営会議に諮り、検討したい。</p>
委員	<p>移動支援事業はヘルパーを募集しても応募がない。報酬単価が安いために事業所が苦しんでいる実態を知ってもらいたい。報酬単価を近隣市並みにしてほしい。できないのであれば、理由を説明してもらいたい。</p>
委員	<p>障害年金1級受給者の受給月額約8万円である。これで地域生活が送れるであろうか。年金額を上げてほしいと言いたいのではないが、物価が上昇している中で、生活するのが大変な状況であることを知ってもらいたい。</p>

事務局	<p>就労継続支援B型事業所に通所する方の平均工賃はいくらか。</p> <p>資料を持ち合わせておらず、正確な金額は申し上げられないが、平均は月額 15,000 円前後であったかと記憶している。</p>
委員	<p>15,000 円であれば、比較的多く支払えている事業所かと思う。事業所運営は大変だと思うが、就労支援について、何か考えなければならない。物価が上昇し、障害者の基本的な生活基盤が揺るがされている。様々な支援をお願いしたい。</p>
会長	<p>しごと部会では、今までは企業就労等を中心に議論を進めてきたが、今後は多様な働き方が必要ではないかということで、「多様な働き方に対応した就労支援、ニーズの把握について」をテーマに挙げている。委員の意見を踏まえて議論できればと考えている。</p> <p>皆様の意見を踏まえ、運営会議で検討したいと思う。事業計画案について承認いただけるか。</p> <p><賛同></p> <p>それでは、(2) について、終了する。</p>
会長	<p>(3) 障害者生産活動振興事業について</p> <p>次の報告に移る。報告(3) 障害者生産活動振興事業について、事務局から報告してもらう。</p>
事務局	<p>【資料3：障害者生産活動振興事業について】説明</p>
会長	<p>何か質問はあるか。</p> <p><意見なし></p>
会長	<p>検討部会に出席していた委員がいるので、補足説明あれば発言をお願いしたい。</p>
委員	<p>活発に議論が交わされた。今までの体制を踏襲せず、改めて発展的な内容で進められないか、すごく良い議論ができたと思う。初めての試みで難しい面も出てくると思うが、障害者の生産活動について、大きな発信ができるのではないかと嬉しく思う。詳細については、今後も詰めていかなければならないが、市内の事業所が意識、力を合わせて取り組んでいかなければ成功しないと思う。協力して取り組んでいきたい。</p>
会長	<p>生産活動事業振興部会の体制図について、事務局案で承認いただけるか。</p>

	<p><賛同></p>
会長	<p>今後のスケジュールについて、事務局から補足説明はあるか。</p>
事務局	<p>当該施設は、本年9月を目途にオープンしたいと考えている。また、実際に販売管理を担う事務局、「運営受託事業者」について、これまでの検討部会での審議を踏まえ「はりま総合福祉評価センター」に委託したいと考えている。将来的なスキームは、姫路市の関与を含めて、部会で検討していただきたいと考えている。現在の体制は端緒としての体制であるをご理解いただきたい。</p>
会長	<p>検討部会において、共同して運営していくためには、物品を供給する特定の事業所が運営するより、本協議会の専門部会を受託している法人が第三者的な立場で運営するべき、という意見をいただき、当該法人の選定を選定することとなった。承認いただけるか。</p>
	<p><賛同></p>
会長	<p>(4) 姫路市支給決定基準の見直しについて 次の報告に移る。報告(4) 姫路市支給決定基準の見直しについて、事務局から報告してもらう。</p>
事務局	<p>【資料4：姫路市支給決定基準の見直しについて】説明</p>
会長	<p>何か質問はあるか。</p>
委員	<p>障害児の支給決定に当たっては、診断書は必須ではないと思うが、基準が不明確である。支給決定に当たっては、生活の中での困り感を最重要事項と考えており、現場の保育士や保護者から得た情報など、客観的な指標に依ってほしい。</p> <p>類似の方法に依る取組として、保育士の加配がある。障害福祉課だけではなく、関連分野で共同作業をすれば、効率的で分かりやすく、利用者が納得する指標になるのではないかと検討してほしい。</p>
委員	<p>支給決定基準について、20年以上大きく変わっていないのは異常だと思う。社会情勢が変わる中で、基準が変わっていないことで弊害を生んでいたと思う。</p>
委員	<p>見直しによって「使いにくくなった」、「使用量が減るのでは」と感じる利用者もいるのではないかと。利用者の困り感を測定できる調査方法など、何か良い方法を取り入れることはできないか。また、調査員ごとに判断が変わり過ぎないようにしてほしい。</p>
会長	<p>支給決定基準の見直しについて、次回2月の全体会で経過を報告してもらうことで</p>

会長	<p>了承していただきたい。現在の社会モデルへの対応を含め、対応できる基準への変更をお願いしたい。</p> <p>事務局案のとおり進める方法で承認いただけるか。</p> <p><賛同></p> <p>議事を終了する。</p> <p>3 その他 <意見なし></p> <p>4 閉会 (12:00)</p> <p>(終了)</p>
----	--